

# 機関リポジトリ担当者の人材育成

代表機関: 広島大学, 分担機関: 大阪大学・千葉大学

広島大学図書館 濱 知美

2012.6.13 平成23年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系)

# お話しすること

1. プロジェクトの背景
2. 活動概要と成果
3. 課題と展望

# 1. プロジェクトの背景

平成22年度まで

## 人材育成に関するプロジェクト

基礎的・地域的に展開(広島大学)  
専門的・全国的に展開(大阪大学)

平成23年度より

整理  
統合

NII「学術ポータル担当者研修」において、機関リポジトリに特化したテーマを変更

国内機関リポジトリの発展に資することを  
目的とし、機関リポジトリ担当者の  
スキルアップを図る

## 2. 活動概要と成果

# 2-1. 機関リポジトリ新任担当者研修の開催

主催: DRF(デジタルリポジトリ連合), 共催: NII

	日程	会場	受講者数 (定員30)	受講者内訳
第1回	平成23年 9/8~9/9	広島大学	29 *辞退1	国立大学 36 公立大学 9 私立大学 39 高専 2 その他 3
第2回	平成23年 10/6~10/7	NII	30	
第3回	平成23年 11/21~11/22	NII	30	

- 第2回は**受付開始即日**に定員数に到達！  
➡ 第3回の追加開催決定！同じく即日定員オーバー！
- プログラム, 講義資料, 受講生成果物

[http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?training%2Fbeginner\\_2011\\_1](http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?training%2Fbeginner_2011_1)

[http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?training%2Fbeginner\\_2011\\_2](http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?training%2Fbeginner_2011_2)

[http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?training%2Fbeginner\\_2011\\_3](http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?training%2Fbeginner_2011_3)

## 新任担当者研修の様子・受講生のコメント



短時間で**効率**よく学べた。



グループ討議は、リポジトリだけでなく  
発表の**ノウハウ**も学べて良かった。

今まで知らなかったことばかりでなく既に知っていることも**整理**でき、よりしっかり**理解**できた。

“自分の大学の教員を知らずにIRの成功はない”とあらためて**痛感**した。



自館に帰って、今後困ったことが起きても**相談できる場**があると思うと、とても心強く感じた。



## 2-2. 機関リポジトリ中堅担当者研修の開催

初

主催: DRF(デジタルリポジトリ連合), 共催: NII

日程	会場	受講者数 (定員30)
平成23年 10/20~10/21	九州大学	22

受講者内訳

国立大学	17
公立大学	1
私立大学	1
高専	0
その他	3

- 講義, グループ討議
  - 学術情報流通・オープンアクセスの歴史から動向まで
  - 国内学会出版・海外出版社の視点
  - コンテンツ増進戦略から学術コミュニケーションの課題まで
- プログラム

[http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?training%2Fsenior\\_2011](http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?training%2Fsenior_2011)



# もう少し詳しく

- 2日間で3回のグループ討議
  - 「学術コミュニケーションの最新動向」  
【課題例】SOAFリストのElsevier and IOP Still Fully Green and Onside With the Angels: Just Ignore Incoherent Distinctions スレッドを読んで、レビューせよ。
  - 「学術コミュニケーションの諸課題」  
【課題例】商業学術出版の狙いが、図書館(資料費)から大学・研究者(研究費)に遷りつつある。この状況に対し、図書館がどう振る舞っていくべきか示せ。
  - 「機関リポジトリのコンテンツ増進戦略」  
オープン・アクセス・ウィークでやりたいこと、日常的なコンテンツ収集のための新たなルーチンワークを考える
- まとめの「宣言」
  - 各受講生が、決めた期限までにやることを決意表明

## 中堅担当者研修の様子・受講生のコメント



実務担当として視野が狭くなりがちな  
ところに良い**刺激**になった。

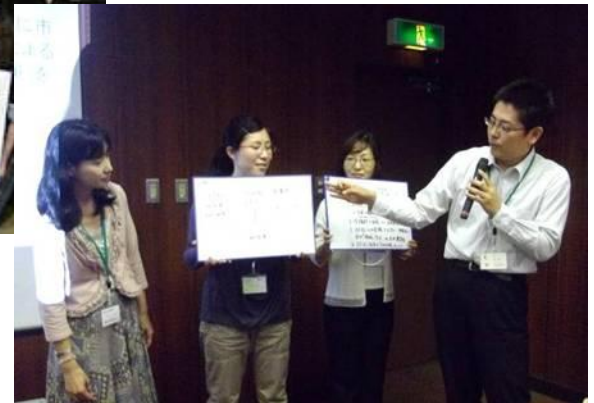
来年も実施して、もっと**多く**の人に受けてもらいたい。



**バイタリテイ**ある  
講師陣だった。



内容としては非常に**難し**  
かったが、とても有意義な  
研修だった。



当初はついていけるか不安だったが、**皆で**考え、講師の方々に  
助けていただき、本当にいい研修だった。

## 2-3. 「技術課題解決のためのワークショップ」の開催

主催: DRF(デジタルリポジトリ連合)

日程	会場	参加者数
平成23年 12/7~12/9	NII軽井沢セミナーハウス	7 *招待制

- 機関リポジトリの運営に役立つソフトウェア・ツールの開発
  - ツール作成, マニュアル作成, レポート作成, サーバ環境設定等
- 開発例(抜粋)
  - Junii2からRePEc<sup>※1</sup>, DOAJ<sup>※2</sup> 形式メタデータへの変換ツール
  - DSpace1.5.2 インストールマニュアルの作成(検証)
- 成果物

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRFtech-Karuizawa2011>

※1 経済学分野のデータベース。Research Papers in Economicsの略称。

※2 オープンアクセス学術雑誌のデータベース。Directory of Open Access Journals の略称。

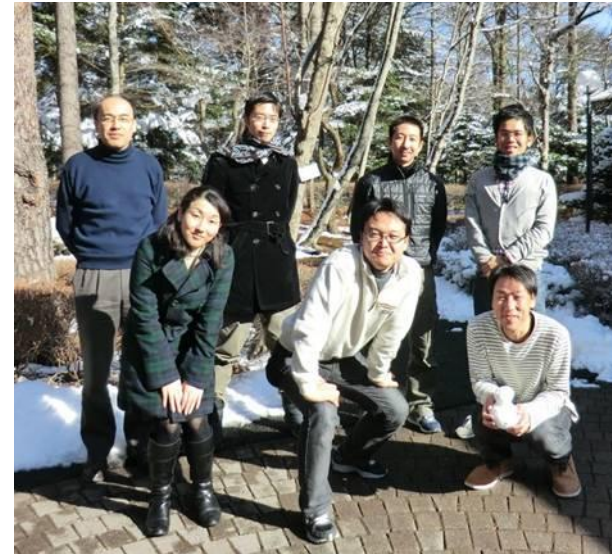
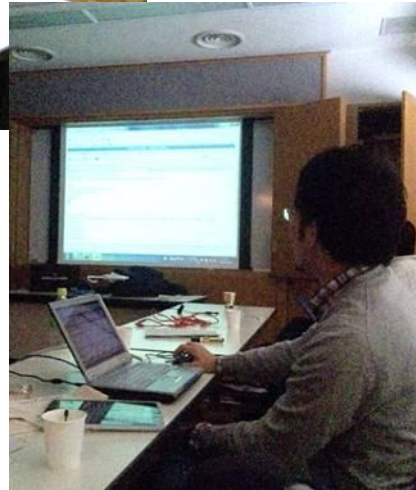
## 会場の様子・参加者のコメント



**チーム**で取り組んでみて、いろいろな成果が出た。

楽になる部分もあったので、テーマ設定と分担設計をしっかりとやれば、**もっと大きなこと**もできるような気がする。

ここでは、実際にシステムの的なことを教えてもらう**機会**となり、聞ける相手も**近く**にいるため、大変有意義だった。



参加時点では初耳だったこともあったが、終了後は、**なんとかなるだろう**と思えるくらいになった。

## 2-4. 講師派遣

日程	内容	会場	参加者数
平成23年 10/31	オープンアクセス講演会 at NAIST	奈良先端科学技術大 学院大学	78
平成23年 11/9	学術機関リポジトリの充実の ための著作権学習会	山梨県立大学	33
平成23年 11/25	広島県大学共同リポジトリ (HARP)勉強会	広島経済大学	27
平成23年 11/29	鹿児島県学術共同リポジトリ 講演会	鹿児島大学	32
平成23年 12/21	国際武道大学 機関リポジトリ研修会	国際武道大学	11
平成24年 1/20	神戸市外国語大学リポジトリ ワークショップ	神戸市外国語大学	33
平成24年 1/23	愛媛大学図書館学術講演会	愛媛大学	35

計249

- 7つのイベントに計11名の講師を派遣
- プログラム, 講演資料

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?Dispatch>

## 会場の様子・担当者コメント

他機関から来ていただくことは、ヒントを得ること以外に人の**つながり**を作ることでないと実感した。



講師選定、派遣依頼等にかかる事務の負担が**軽く**なった。



プログラムすべてその活動が魅力的に伝わってきて、ぜひ本学でも**構築を実現**したいと感じました。(参加者より)

大学として機関リポジトリ取り組みへの**第一歩**を踏み出せた。

## 2-5. 「IR研修検討会議」への参加

日程	会場
平成24年 1/19～1/20	北海道大学

- 英国のRSP (Repository Support Project )と情報交換
  - 研修事業や実施形態の改善に
    - 合宿形式のサマースクール, アンケート形式 など
- 議事メモ, 発表資料

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF%20RSP%20meeting>



# 平成23年度のまとめ

- 今後のIR発展をリードする人材、地域や分野で核となる人材を育成
- 人材育成事業は、DRF(デジタルリポジトリ連合)の主要な事業の一つ
- 「大学図書館の現場における育成」の基盤
  - 「大学図書館の整備について(審議のまとめ) – 変革する大学にあって求められる大学図書館像 –」平成22年12月



# 3. 課題と展望

- 人材育成事業を**継続**することの重要性
  - JAIRO Cloud 開始により、IR未構築機関からの需要が高まる
  - IR既構築機関においても、担当者の異動・継承問題は常にある
  - 今後のIR発展をリードする人材、地域や分野で核となる人材を育成する場
  - コミュニティ形成・情報共有の場

平成24年度は

新任担当者研修の定着化  
中堅担当者研修は、よりIRを意識  
地域ワークショップも

CSI委託事業終了後は？